

令和4年度第6回川崎市社会教育委員会議 定例会

日 時 令和4年12月14日(水)
18:30～20:30
場 所 生涯学習プラザ 401大会議室

次 第

- 1 開会 (18:30～18:40)
- 2 報告事項
 - (1) 専門部会報告 (18:40～18:50) 【資料1】
 - (2) 平和教育映像教材等連絡調整会議報告及び神奈川県社会教育委員
連絡協議会地区研究会(愛川町会場)報告 (18:50～19:00) 【資料2】
- 3 協議事項
 - (1) 生涯学習活動推進方針(案)について (19:00～20:15) 【資料3-1】
【資料3-2】
【資料3-3】
【資料3-4】
- 4 その他 (20:15～20:25)
- 5 閉会 (20:25～20:30)

※ () 内は質疑応答を含む想定時間

令和4年度川崎市社会教育委員会議専門部会 実施状況

	専門部会	第1回		第2回		第3回		第4回	
		日にち	報告書	日にち	報告書	日にち	報告書	日にち	報告書
1	教育文化会館	6月17日	○	9月27日	○				
2	幸市民館	6月26日	○	9月12日	○				
3	中原市民館	8月3日	○	10月18日	○	12月12日	-		
4	高津市民館	6月23日	○	10月14日	○	12月9日	-		
5	宮前市民館	6月28日	○	9月21日	○	12月13日	-		
6	多摩市民館	6月17日	○	9月12日	○				
7	麻生市民館	8月18日	○	未定	-				
8	有馬・野川生涯学習支援施設	7月26日	○	11月8日	○				
9	図書館	7月1日	○	9月21日	○	12月5日	○		
10	日本民家園	5月21日	○	7月31日	○	12月10日	-		
11	青少年科学館	6月17日	○	12月7日	-				
12	青少年教育施設	11月30日 黒川で実施	○						

○・・・提出済

専門部会審議報告書

部会名	令和4年度第2回 川崎市社会教育委員会議有馬・野川生涯学習支援施設専門部会
開催日時	令和4年11月8日(火) 14時から16時まで
場所	有馬・野川生涯学習支援施設 2階フリースペース
出席者	〈委員〉小倉敬子(部会長)、生駒みを(副部会長)、伊藤昇、津田知充、永野勝 鴨志田由美、野島隆行 〈事務局〉齊藤館長・岸本課長補佐(宮前市民館) (指定管理者)境館長、山口東京営業部シニアディレクター(アクティオ株式会社)
議事項目	(1) 令和3年度所管課評価について (2) 令和4年度上半期管理運営業務報告について (3) 令和4年度上半期利用実績・事業・収支報告について (4) 「市民館・図書館の管理・運営の考え方」について (5) その他 次回の開催日程について

決定・確認事項

- (1) 令和3年度所管課評価について
 - ・齊藤館長から報告・説明。
- (2) 令和4年度上半期管理運営業務報告について
- (3) 令和4年度上半期利用実績・事業・収支報告について
 - ・境 有馬・野川生涯学習支援施設館長から報告・説明。
- (4) 「市民館・図書館の管理・運営の考え方」について
 - ・齊藤館長から報告・説明。
- (5) その他 次回の開催日程について
 - ・次回、第3回有馬・野川生涯学習支援施設専門部会の開催日時 3月14日(火) 午前10時から12時に決定した。

主な意見

- (1) 令和3年度所管課評価について
 - ・指定管理最終年度としては、非常に良い評価だった。
- (2) 令和4年度上半期管理運営業務報告について
- (3) 令和4年度上半期利用実績・事業・収支報告について
 - ・保護司会でも更生保護サポートセンターがあるが、分野に関わらず、色々な意味で地域や人をサポートする場が必要なのではないかと思う。アリーナにもそのような場があればと思う。
 - ・相談内容ごとの曜日帯のリストがあり、一部屋の中で時間帯を決めて、相談の時間に来てもらうことで、様々な対応ができる。地域のニーズに応えるということを考えていただきたい。

(4)「市民館・図書館の管理・運営の考え方」について

- ・指定管理者制度のスケジュールなども最終ページに記載がある。各自、確認して頂きたい。パブリックコメントの意見が反映されれば良いと思う。

その他

なし

専門部会審議報告書

部会名	令和4年度 第3回図書館専門部会
開催日時	令和4年12月5日(月) 14:00~16:00
場所	中原図書館多目的室
出席者	<p>委員：小野委員、菅原委員、今野委員、渡部委員、千委員、吉田委員、青柳委員、渡邊委員（8名出席）</p> <p>※8名の委員出席により川崎市社会教育委員会議規則第6条第6項、過半数以上の出席により定数を満たし本会議は成立した。</p> <p>図書館：横田・川崎図書館長、小島・中原図書館長、土屋・高津図書館長、舟田・宮前図書館長、澁谷・多摩図書館長、和田・麻生図書館長</p> <p>事務局：中原図書館 能塚・庶務係長、浅野課長補佐・資料調査係長、飯草課長補佐・図書館ネットワークシステム担当 植原主任</p>
議事項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 資料確認 2 第2回議事録確認 3 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 図書館だよりについて (2) 各館の活動について 4 協議事項 (1) 今期の図書館専門部会のテーマの選定について 5 その他 (1) あり方の説明・確認 (2) 次回日程について

決定・確認事項

・第3回 協議テーマとして、委員協議の結果、『図書館における【人づくり】・【つながりづくり】・【地域づくり】と【見える化】を考える』～行きたくなる図書館、まちに飛び出す図書館、地域の‘チカラ’を育む図書館 への取り組み～ に決定した。

※ただし副題の有無や内容等については、今後の研究の状況によって変更・修正を検討する。

主な意見

- 3 報告事項
 - (1) 意見等無し
 - (2) イベント等の実施については、効果等も検証してほしい。
- 4 協議事項
 - (1) 「今期の図書館専門部会のテーマの選定について」
 - ア 「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」は目的であり、「見える化」は手段である。図書館は自館の運営のみならず、まちに飛び出し、かつ連携して事業も行っていることに驚いた。
 - イ 図書館のユニークな諸活動を、分類・分析していくことが重要である。複合的な要素を持つ事業でも、どの要素が大きいのか分類していけば、「知と情報の拠点」として図書館がどうあるべきか見えてくるのではないか。
 - ウ テーマとしては、実践、分析、効果測定という流れでイメージしやすいのではないか。
 - エ 図書館へ期待するというだけでなく、地域からも盛り上げて、そういうものが図書館に伝わっていくことで新しい図書館がどうなっていくのかを考えていければよい。

その他

傍聴者：3名

専門部会審議報告書

部 会 名	令和4年度第1回青少年教育施設専門部会
開催日時	令和4年11月30日(水) 14:30~16:15
場 所	黒川青少年野外活動センター
出席者	<p><委員>谷島部会長、番匠副部会長、中井川委員、松田委員、境委員、太田委員、原田委員、小林委員、黒川委員</p> <p><事務局>こども未来局青少年支援室：岡本担当課長、上原担当係長、内藤職員 教育委員会事務局生涯学習推進課：山口係長</p> <p><指定管理者>八ヶ岳少年自然の家：窪田所長、三井課長 黒川青少年野外活動センター：野口所長、坂口主任 青少年の家：佐藤所長、齋藤副所長 子ども夢パーク：友兼所長</p>
議事項目	<p>(1) 川崎市黒川青少年野外活動センター 施設見学</p> <p>(2) 部会長及び副部会長の互選について</p> <p>(3) 令和4年度事業計画の進捗状況について</p> <p>(4) その他(質疑応答等)</p>

決定・確認事項

- (1) 川崎市黒川青少年野外活動センター 施設見学
- (2) 部会長及び副部会長の互選
- (3) 青少年教育施設4施設における、令和4年度事業計画の進捗状況について、各指定管理者から報告。

主な意見

- ・子ども夢パークにおいて、映画「ゆめパのじかん」の公開やNHKにおける特集の放映による反響で、他自治体や議員等の視察件数が増えている旨の報告があった。広報という観点では望ましい状況である一方、視察受け入れに係る職員負担が大きくなることに対する対策を講じるべきではとの意見があった(受入視察料の徴収や指定管理料への費用の反映、など)。
- ・青少年教育施設4施設の周知について、利用促進の観点から、SNSを活用した情報発信・PRを積極的に行ってほしいとの意見があった(具体的には、紅葉など、季節のトピックを随時アップするなど)。
- ・事業計画の進捗報告において、新型コロナウイルス感染拡大による利用状況の影響を把握するため、平成30年度の実績との対比についても報告書に記載するよう要望があった。
- ・部会として、青少年教育施設4施設の認知度を高める取組を実施してはどうかとの意見があった。

その他

傍聴者：なし

令和4年度神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会（愛川町会場）報告書

標記の件について、地区研究会（愛川町会場）に出席したことを次のとおり報告いたします。

- 1 目的 県内の各市町村の社会教育委員が一堂に会し、それぞれの地域での取組や社会教育の今日的課題について研究協議・情報交換することにより、資質の向上を図る。
- 2 テーマ 愛川町を愛する～ふるさと愛川の豊かさと愛着を感じる社会教育の振興をめざして～
- 3 日時 令和4年11月21日（月）13時～16時
- 4 会場 愛川町文化会館 ホール（愛川町角田250-1）
- 5 その他
 - (1) 事例研究（人のつながり、文化の継承）13時45分～15時45分
 - (2) 質疑応答15時45分～15時55分
 - ①川崎市の「日本民家園」と愛川町の「古民家 山十郎^{やまじゅうろう}」（平成21年1月国登録有形文化財）における〈古民家〉という共通項を介した〈特色のある諸施設活用〉状況に関して質問。
（戦前の思想家 大川周明が死去するまで「山十郎」に居住していたことは、町の人びとにとり周知の事実。同邸はコスプレ及びコンサートの会場としても活用中、との回答。）
 - ②川崎市の「獅子舞」と愛川町の「三増獅子舞^{みつます}」（昭和36年 神奈川県無形民俗文化財）における〈地域伝統芸能〉という共通項を介したボランティア〈ヒト〉（協働）活動支援状況に関して質問。
（三増獅子舞保存会が伝統芸能を継承しているほか、愛川高校の生徒が選択授業に舞を取り入れていたが、現在、選択授業は中断、との回答。）

令和4年11月28日

川崎市社会教育委員

氏名 秋元英輔

「生涯学習活動推進方針（案）」に対する社会教育委員からの意見一覧（めざす社会像への反映を検討）

No.	媒体	名前	意見	反映を検討する項目	事務局の考え方
1	意見書	森島委員	「Colors,Future! いろいろって。未来」と、謳っているように、「多様性」や「多様性を尊重した社会」という意味あいが入るといいなと思いました。	めざす社会像	川崎のブランドメッセージである「Colors,Future! いろいろって。未来」や多文化共生などについては、これまでも川崎市がめざしてきた都市像であり、かわさき教育プランにおいても、基本目標で、個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かし、ともに支え、高め合える社会をめざし、共生・協働の精神を育むことを位置づけています。そのため、生涯学習分野の活動方針のめざす社会像に「多様性の尊重」や「多様性を認め合う」というキーワードの挿入を検討することは大切であると認識しているため、今回の方針の改定にあたり、めざす社会像に盛り込むかたちで検討します。
2	意見書	大津委員	誰一人取り残されない多様性・包摂性のある社会、豊かで幸福かつ活気ある持続可能な成長の実現を目指す。	めざす社会像	
3	意見書	井口委員	平和・基本的人権の尊重などは既存のまま活かしつつ、必ずしも経済的発展だけが正しいわけではない社会において、誰もが取り残されないソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）の理念をもった内容にしたい	めざす社会像	
4	意見書	中村委員	市民に、外国人や働きに来ている人、学生も入るのかしら？ 誰もが基本的人権を尊重され安心して暮らせる社会になって欲しいです。	めざす社会像	
5	意見書	中村委員	多文化共生を、川崎らしさとして大事にしてはどうか。	めざす社会像	
6	意見書	岩木委員	個人や社会の多様性の尊重	めざす社会像	
7	第5回定例会	下田委員	めざす社会像には、川崎らしさというのはないので、それは何なのだろうなというのは考えることが一つと、豊かで活力がある社会というのは分かっているようで分からない。この部分がむしろ中身があまりにも人によってイメージが違ってきてしまうので、財力が豊かなのか、何が、心が豊かといってもいろいろあるし、むしろこの辺のところをもっと中身を今回付け加えていけば、良いのではないかという気がします。	めざす社会像	

No.	媒体	名前	意見	反映を検討する項目	事務局の考え方
8	意見書	高森委員	この「めざす社会像」にある表現だけではなく、全体を通して学習や学びは「知識の吸収」となっているように感じます。私自身「学習」という表現から、「何か知識を教えてください、吸収する」という感覚でしたが、ある社会教育の先生から「学習や学びは経験であり、多世代が交流することで、互いの知識や理解を共有し合う経験が学びとなる。」といった言葉を聞き、自身が関わっている地域教育会議における事業について、より広く考えられるようになった経験があります。現在の表現の中に「互いに」「共有し合う」などの表現が入っていると、「共助」にも繋がりが出来てくるように感じました。	めざす社会像	生涯学習分野の施策の推進にあたっては、「川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョン」や「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」とも理念を共有し、教育以外の他の関連分野の施策とも連携しながら、「共助」や「互助」の取組を市民との協働により進めていくことは重要となります。そのため、「互いにつながり合う」や「知識や理解を共有し合う」などのキーワードを今回の方針の改定にあたり、めざす社会像に盛り込むかたちで検討します。
9	意見書	下田委員	「民主主義の精神にのっとり、平和と基本的人権を尊重し、市民が自ら考え学びを創造するとともに、高め合いながら、『多様化多文化を認めて、つながり合える』川崎らしさを生かした社会を目指します。」 意見：①憲法に精神に沿った普遍的な原理は残す。→下線部分 ②変えたとしたら、川崎らしさと時代に合う言葉を入れる。「らしさ」=他の都市と比べて誇れるところ等= *多文化共生*人権意識*行政と共にある市民活動 等 *文化・社会教育施設=「ふれあい館」・「日本民家園」・ミュージアムと貯蔵資料（映画ポスターや脚本とか）・藤子・F・不二雄ミュージアム *文化・スポーツ活動=郷土市民劇の演劇活動・プロスポーツ（サッカー・バスケ・ブレイキン）*市民合唱団（百数十団体）*お祭り（獅子舞等）*他 →太字『 』の部分	めざす社会像	
10	意見書	河村委員	（「夢や希望を抱いて生きがいのある人生をおくるための礎を築く」と定められた「かわさき教育プラン」の基本理念を受けて、）ここ川崎では、だれもが権利を脅かされることなく平和で豊かな生活を送ることができるよう、人々が自発的に考え、学び、互いに高め合いながら、その学びの成果を暮らしに活かし、豊かで活力のある社会の実現を目指していきます。	めざす社会像	かわさき教育プランの基本理念においても、これからの社会を見据え、願うのは、どのような社会状況においても夢や希望を抱き、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動しながらいきいきと躍動する市民の姿であり、市民一人ひとりがお互いを尊重し、支え合い、高め合いながら共に生きる社会の姿であることを謳っています。そのため、「互いに高め合う」や「自ら考え、学ぶ」などのキーワードを今回の方針の改定にあたり、めざす社会像に盛り込めかたちで検討します。
11	意見書	大津委員	「人生100年時代の生涯学習社会の実現」～生涯を通じた学びと成長～ 人口減少、少子高齢化、人生100年時代の社会到来を見据えた場合、高齢者は豊富な経験と英知を備えた知恵袋であり、社会の財産・宝である。一身にして二生を歩む時代、生涯学びの継続により、健康かつ自助・共助力の向上と生きがいのある人生を歩むことを目指す。人生のベテランとして次代社会の為に今まで蓄えた英知を生かし、未来へつなぎ豊かで質の高い学びと成長の場を提供し、広めるべきである。	めざす社会像	高齢者は豊富な経験と知識を備えた知恵袋的な存在であり、人生を積み重ねてきたベテランとして次世代の地域社会の為に今まで蓄積した豊富な経験や知識を生かし、そのスキルを地域に還元しながら、地域課題の解決につなげていくことは、持続可能な地域社会の実現にとってたいへん重要なキーワードであることから、今回の方針の改定にあたり、めざす社会像に「成果の地域への還元」や「持続可能な社会の実現」を盛り込むかたちで検討します。

No.	媒体	名前	意見	反映を検討する項目	事務局の考え方
12	第5回定例会	井口委員	めざす社会像の部分は、個人的には1年、2年単位で社会の情勢が変わっていく中でアップデートするべきというよりは、むしろここにどれだけ普遍的なことが書いてあるかというところのほうが論点になると考える。	めざす社会像	
13	第5回定例会	下田委員	めざす社会像の「民主主義の精神にのっとり、平和と基本的人権を尊重し」というところだけ取ると、日本国憲法の精神というか、その上に書いてあると思います。議長が言うように、民主主義というのは流れやすい面もあるので、その歯止めというか、市民が自ら自主的に考えて学びを創造する。つまり流されるのではなくて、自分の考えを持って、それで民主主義を支えていこうということだと思うので、基本的な普遍的な考え方という感じがするので、私は変える必要がないと思う。	めざす社会像	この部分は、目指すべき社会像には、「普遍的なことを記載する必要がある」といった御意見の部分です。 事務局としては、改定するにあたり、修文する・しないに関わらず多様な考え方があることを踏まえて、他の委員の方々の御意見をお伺いできればと考えております。
14	意見書	井口委員	社会のあり方、潮流の変化が激しくなる時代において普遍的であるべきことを大切にしたい	めざす社会像	
15	意見書	中村委員	「民主主義の精神にのっとり」だと、民主主義が完全に良いもののように思えてしまう。民主主義には限界があるが、それでも志向し続けなければならないものだと思うので、前提ではない気がする。しかし目指すと言うのも変で、悩みます。	めざす社会像	
16	意見書	中村委員	「考えを学びを」が？ 「考え、学びを創造する」かしら？	めざす社会像	文言を修正することで対応します。

「生涯学習活動推進方針（案）」に対する社会教育委員からの意見一覧（市民向けメッセージへの反映を検討）

No.	媒体	名前	意見	反映を検討する項目	メッセージとして要旨化
17	意見書	秋元委員	「現世代バイアス解消」の検討 「現世代に有利でツケを将来世代に残すような政策が採用されがちとなる」という「現世代バイアス」の解消にむけた「フューチャー・デザイン」手法等の検討を川崎市でも社会教育の一環として試行する。	メッセージ1-1	将来世代にツケを残さないように、地域の課題を自分事として考えることが大切です
18	第5回定例会	秋元委員	いろんな事実がある中で、自分で考えていくということは、やっぱり大切なことだと思います。そうした中で、学校については、私は川崎GIGAの中にそういうフェイクニュースの見分け方を学んでいくという、視点を入れるということで対応はできるのかなと思います。	メッセージ1-1	何が本物で何が偽物か、自分の頭で考え続けること。
19	意見書	高森委員	上記1と同様に、ここでも学習や学びは「知識の吸収」という前提のように感じます。2の文中、「学びの機会を提供して学びによる地域のつながり・・・」「地域のさまざまな人が集い、生き生きと学び、つながり・・・」という文章に関して、「集い、つながり」の時点で既に学び合っているように感じます。 また1については、「地域が家庭に寄り添い・・・」とありますが家庭も地域に参加しなければ社会は作れないと考えます。それは、地域教育会議において話し合いを進める中、「社会活動に参加してくれない方々が増えている」という声を多く聞くからです。あまり押しつけがましくない表現で、記載があればと思います。	メッセージ1-2	知識を得るだけでなく、他者と関わり合うことで学び合うことが大切です。
20	意見書	渡邊委員	つながり合う場を育てる 人々がつながり合い、多様な学び合いや、支え合いができる場を生み出し、安心して暮らせる社会をつくる。	メッセージ1-2	つながり合う場を育てる。人々がつながり合い、多様な学び合いや、支え合いができる場を生み出し、安心して暮らせる社会をつくっていくこと。

No.	媒体	名前	意見	反映を検討する項目	メッセージとして要旨化
21	意見書	石川委員	新たな、横断的な取り組みが不可欠の「学び」の場となる学校、市民館、図書館等の施設が寺子屋的な「場」となり、「人づくり」、「つながりづくり」、「地域づくり」の推進を図りながら、持続可能な地域づくりと安心して暮らし続けるしくみづくりを進め、交流・つながりのあるコミュニティを形成する。	メッセージ1-2	「人づくり」、「つながりづくり」、「地域づくり」の推進を図りながら、持続可能な地域づくりと安心して暮らし続けるしくみづくりを進め、横断的な取り組みが不可欠の「学び」の場となる学校、市民館・図書館等の施設が寺子屋的な「場」となり、交流・つながりのあるコミュニティを形成する。
22	意見書	岩木委員	地域との連携	メッセージ1-2	地域との連携
23	意見書	石川委員	未来とはどこにあるのか。学校とはどこへ行くのか。高齢者とはどの世代をいうのか。3人に1人が高齢者なら、垣根を取っ払って進めいく。 「これまでの」という言葉はもはや通じない時代となっていくはずである。人間の最適化を進めるのではなく、新たな時代もより進んだ人間中心の幸せな社会の実現を目指し、教育やIoTと連携し、心の通う豊かなコミュニティづくりを目指したい。	メッセージ1-2	幸せな社会の実現を目指し、教育やIoTと連携し、心の通う豊かなコミュニティづくりを目指したい。
24	意見書	河村委員	家庭・地域の教育力を高める ⇒子ども・子育てを通じたコミュニティ醸成への寄与 家庭だけでなく地域全体で子どもを見守り育てていく セーフティネット つながり 公園や遊び場 交流の場 多様性 デジタルメディアやICTとの向き合い方	メッセージ1-2	多様なつながりを大切に、家庭だけでなく地域全体で子どもを見守り育てていく
25	意見書	中村委員	施策2 ・ 学びは生かさないともったいない。 ・ 生涯学習は、伝統的な教育観の単なる延長ではなく、学習観、教育制度、社会の在り方などに対する価値観やライフスタイルの転換が必要。	メッセージ1-2、1-5	・ 学びを活かしていくこと ・ 生涯学習は、伝統的な教育観の単なる延長ではなく、学習観、教育制度、社会の在り方などに対する価値観やライフスタイルの転換が必要。

No.	媒体	名前	意見	反映を検討する項目	メッセージとして要旨化
26	意見書	石川委員	「場力（バリキ）」ある心の“場”をつくることにさらに邁進していきたい。新たな付加価値や教育と人と人の心を結び新しい時代の実現に向けて進んで行く。市民館、図書館、学校を活用した総合的な支援が、指導者が不可欠となる。	メッセージ1-2	人と人が結びつき新たな付加価値につなげていくために、市民館・図書館・学校などを活用し、総合的な支援や指導者の育成を行っていくこと
27	意見書	渡邊委員	人を育む 地域に暮らす子どもから高齢者まで、一人ひとりが大切にされ、多様性を認め合える社会をつくる。	メッセージ1-3	地域に暮らす子供から高齢者まで、多様性を認め合える社会を創っていくこと。
28	意見書	中村委員	施策1 VUCAな時代、自分たちが受けてきた教育が正しいとは限らないから、多様な人と繋がることで、自らのアンコンシャスバイアスに気付いたり、学びほぐすことも学び。	メッセージ1-3	VUCAな時代、自分たちが受けてきた教育が正しいとは限らないから、多様な人と繋がることで、自らのアンコンシャスバイアスに気付いたり、学びほぐすことも学びです。
29	第5回定例会	町田委員	川崎は、いろいろな地域から人が来ているので、多様性というのはすごくあると思う。それから、川崎のまちの特徴として、川崎の暖かさというのがあるのではないかなと思う。また、川崎の行政とか、川崎に移住しようというのもやっぱり面倒見がいいということがあると思う。	メッセージ1-3	多様性・多文化を尊重し理解し合うこと
30	第5回定例会	町田委員	こども文化センターの隣に老人いこいの家とかそういう施設があったりして、若い人と、それから年寄りとの交流が結構あると思います。	メッセージ1-3	多様性・多文化を尊重し理解し合うこと

No.	媒体	名前	意見	反映を検討する項目	メッセージとして要旨化
31	第5回定例会	下田委員	文化的なところで、ふれあい館などは、地域コミュニティとして、いろいろな多文化の共生も、それからほかの国の韓国、在日コリアン以外の人たちも受け入れて、いろいろなことをやっていますし、川崎市と一体になって、人権デモ等の大事なヘイトスピーチの総起点で、全国に先駆けて、川崎市でやったということで、全国でどこもまだやっていないことですから、そういうのはかなり特筆すべきことなのかなと思います。	メッセージ1-3	多様性・多文化を尊重し理解し合うこと
32	第5回定例会	下田委員	川崎らしさって拾い上げれば幾らでも、子ども夢パークだって、映画になったり、テレビでも放送されたりありますから、そういうのを教育委員会事務局の方で拾い上げていただければ、おのずとそういうものを持っている川崎市というので、イメージが出てくる、膨らむし、そこから、抽象的な言葉の多文化だ、多様性だというのはいいんですけども、そういうこと、川崎らしい言葉がそこで生み出されれば、こんな川崎になってほしいなという、豊かで活力のあるものの中身も出てくるのかなというふうに思います。	メッセージ1-3	多様性・多文化を尊重し理解し合うこと
33	意見書	岩木委員	市民の主体的な学びを支える環境づくり	メッセージ1-4	市民の主体的な学びを支える環境づくり
34	意見書	石川委員	時代を担う子供たちの新しい学習環境づくり、人とのつながり、多様性の理解をリードするための模擬授業の体験をし、参加者が頭と体で理解する集いを経験豊かなベテランが開催するイベント。 (地域や中央での開催)	メッセージ1-4	模擬授業などの体験を通じて、時代を担う子供たちの新しい学習環境づくり、人とのつながり、多様性の理解をリードする。

No.	媒体	名前	意見	反映を検討する項目	メッセージとして要旨化
35	第5回定例会	井口委員	11月4日に総務省で第1回ICT活用のためのリテラシー向上に関する検討会というのが開催された。例えばICTのスマホ、インターネットのリスク教育や、デジタル・シティズンシップという考え方に基づいたリテラシー教育についての検討も進められている。まさに今ちょうどこの生涯学習方針の社会教育委員会議の検討のスケジュールとほぼ同時進行で行われているところになっている。その中でもデジタル・シティズンシップは、デジタル社会における真意性というか、市民の振る舞いだったり、ICTとかデジタルを、自分たちがどう使っていくか、技術的に使えるかというところの考え方や、学習機会をどう確保するかという議論が、これからまさに進められていくところになっている。	メッセージ1-4	ICTやデジタルを自分たちがどう使っていくか、技術的な使い方を含め、社会の変化に柔軟に対応した学習機会を確保していくこと。
36	第5回定例会	井口委員	ICTのリテラシー教育というか、今、この方針上だと、ICTの活用という部分は、幾つか文としては見られるものの、デジタル社会にもうまさに突入していて、ほぼ皆さんが強制的にデジタル社会の一員になっている中で、ICTの活用という学びの機会という部分が、この方針の中で触れられていないというのは、次が4年後だと思うと、結局反映されないままそういうことになってしまうのではないかなという危機感があります。	メッセージ1-4	ICTやデジタルを自分たちがどう使っていくか、技術的な使い方を含め、社会の変化に柔軟に対応した学習機会を確保していくこと。
37	第5回定例会	井口委員	昨年度までは、望んでもないのに、デジタル社会に入ってしまうという感覚から反発される方もいらっしゃったのですが、一方で、情報がどんどん得られてしまう中で、子どもたちは今GIGAスクールという中で情報モラルとかの教育はありますけど、もう学校を卒業してしまっている世代の生涯学習という視点だと、やっぱりなかなかその議論というのが、国でも今始まったばかりというところでは、今回、社会教育委員会議からのメッセージとして、何かそこに触れるとか、議論するという機会がもし得られるのであれば、ぜひ入れたほうが良いと思う。	メッセージ1-4	こどもから大人まで、幅広い世代を対象にした学びが生涯学習。学校教育以外でも学びを継続することが大切。
38	第5回定例会	井口委員	理想的には、施策の中で、地域における教育活動とか、家庭教育支援の充実という施策が並ぶ中で、デジタル社会におけるリテラシー教育みたいなものが一つ軸として、少なくともデジタル社会という現状の社会に適応した施策というのがあると良いと思っているが、その検討が今まさに始まっている段階ということもあるので、ここにそれを入れるというのは難しいのであれば、一つ包括的なメッセージとして、何か盛り込むことはできないかと考える。	メッセージ1-4	デジタル社会が進展している今だからこそ、大人の学びを深めることが重要。

No.	媒体	名前	意見	反映を検討する項目	メッセージとして要旨化
39	意見書	井口委員	生涯学習活動の方針として、「現代的課題」に関する学びや学び直しは子どもだけの取組みではなく、大人だからこそ学ぶ機会を最大限活かしてほしいというメッセージを入れたい。	メッセージ1-4	様々な社会的な課題がある今こそ、子どもも大人も全ての世代で学ぶ機会を最大限に活用していくことが大切
40	第5回定例会	河村委員	今、乳幼児のお母さんたちのことを考えると、どうしても新型コロナの影響がすごく大きくて、「人づくり」とか、「地域づくり」とか、「つながりづくり」というところで、大きなマイナス要因にはなっているかなと思っている。	メッセージ1-4	新型コロナウイルスのような事態でも、人づくり、地域づくり、つながりづくりを止めない。
41	第5回定例会	河村委員	今、乳幼児の保護者の方に155人ぐらいアンケートを取っています。お子さんたちがメディアを見る時間というのも確実に増えているなというところがあって、外遊びする時間よりも、画面を見ている時間というのがすごく長くなっていて、最近は絵本よりも、アプリでという子たちもすごく増えているというふうに思うと、今回メッセージをまとめてというところで、新型コロナ、新しい生活様式というのは、どれぐらい意識して、これをつくっておくべきなのかなというところが、私の中では、まだ定まらないなと思いました。	メッセージ1-4	新しいことも古いことも、良いところを取り入れて学びを深めていくこと
42	第5回定例会	大津委員	文科省で10月18日に全国の会合があり、子ども会からは連盟長が出席しました。その中で、「子供の体験活動推進宣言」というのが出て、次世代の社会を担う者として、新たな価値を創造する力、対立やジレンマを克服する力、責任ある行動を取る力を身につけていくためにも、リアルな体験活動が重要だとあり、要は、少子化、核家族化、デジタル化が進む中、今非常にリアルな体験が不足しているということで、自己肯定感の低下とか、いじめとか、どんどん増えていっているということからも、ぜひ体験活動を増やしていきましょうという方針が出ています。特に、異年齢交流とか、職業体験、自然体験、あとボランティア体験、そういうものをどしどしこれから増やしていきましょうという話が出ております。そういう、新たな方針が出ていますので、取り入れてもらえるといいのかなと思います。	メッセージ1-4	責任ある行動を取る力を身につけていくためにも、リアルな体験活動が重要。異年齢交流、職業体験、自然体験、ボランティア体験などを展開していくことが重要。
43	第5回定例会	井口委員	学び、教育といった生涯学習の方針だと思いますので、子どもに限った話にならない視点での議論ができればなと思っています。世代的にも実家に帰ったら親がリアリストになっていたって話も結構ありますので、情報にさらされるとか、情報だけじゃなく、学びとか、いろんなことに対して世代を幅広く議論ができればと思います。	メッセージ1-4	学びは子供に限ったことではありません。全ての世代にとって必要です。

No.	媒体	名前	意見	反映を検討する項目	メッセージとして要旨化
44	意見書	中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の学びに焦点を当てすぎると、行政の教育責任の範囲が不明確になるので、教育格差を生まないように、しっかりと取り組んでいく姿が見えるように。 ・生涯学習は学校卒業後のことではなく、学校教育も含むものであり、赤ちゃんからお年寄りまで、人生のあらゆる時期に、あらゆる学習機会が提供されているとともに、得られる力を培うことも大事。 	メッセージ1-4	教育格差を生まないために、いつでも、どこでも、だれでも学べる環境を整えていくこと
45	意見書	石川委員	人材を育成する「学校」づくり、人を結ぶ「情報ネットワーク」づくり、人を豊かにする「文化・スポーツを楽しむ場」づくりを工夫したい。	メッセージ1-5	人材を育成する「学校」づくり、人を結ぶ「情報ネットワーク」づくり、人を豊かにする「文化・スポーツを楽しむ場」づくりを工夫したい。
46	意見書	渡邊委員	文化の発見・創造を楽しむ 地域の様々な文化を見聞きして楽しんだり、生活を豊かにする文化を創る喜びを味わえる社会をつくる。	メッセージ1-5	文化の発見・創造を楽しむこと。地域の様々な文化を見聞きして楽しんだり、生活を豊かにする文化を創る喜びを味わえる社会をつくっていくこと。

No.	媒体	名前	意見	反映を検討する項目	メッセージとして要旨化
47	意見書	山本委員	<p>先日の会議で川崎らしさのお話が出ましたが私が注目しているのは、新しい科学技術の開発拠点として「新川崎・創造の森」（1999（平成11）年2月に「新川崎・創造のもり計画」を策定し、新川崎・創造のもり地区（D地区）において、産学公民の連携により、21世紀を支える新しい科学技術や産業を創造する研究開発拠点の形成と次代を担う子どもたちが科学・技術への夢を育む場づくりを推進しています。）</p> <p>このような、新しい科学技術の開発拠点があることが、とても誇らしく思い少しでも多く方に知って欲しいと思いました。</p>	メッセージ2-1	川崎には素晴らしい資源がたくさんあります。科学館や日本民家園などの施設を訪れて、川崎の魅力に触れてみましょう。
48	意見書	大津委員	<p>「子どもの体験活動の推進に向けて」</p> <p>少子化、核家族化、デジタル化が進む中、さらにコロナ禍もあり、現代の子ども達はリアルな体験が日々不足し、自己肯定感/自立性/協調性/積極性等の非認知能力が低下していることが判明している。次代社会を担う者達が新たな価値・想像力・対立するジレンマを克服する力・責任ある行動をとる力等を身に付け成長していく為に、学校・地域・企業等は連携体制の構築により社会全体で子どもの様々な体験活動の量的・質的な充実を計るべきである。</p>	メッセージ2-2	青少年の家や黒川野外活動センターなどでは子どもの自然体験活動を行っています。親子での体験活動をしてみませんか。
49	意見書	秋元委員	<p>市民、事業者、行政が協働する「かわさきプラスチック循環プロジェクト」に関する環境教育の取組</p> <p>水平リサイクルの取組について、市内リサイクラーの活用が見込めるペットボトルから先行的に取組む「かわさきプラスチック循環プロジェクト」に関わる環境教育を実施することにより、川崎市が「環境にやさしいまち」であることを市民に訴求することを可能にする、と考えられる。</p>	メッセージ2-2	市民館では様々な展示をしていたり、講座が実施されていたり、学ぶための環境があります。
50	意見書	秋元委員	<p>「まちに飛び出す博物館」。文化財の保護・活用と魅力ある博物館づくりを進める―（日本民家園）を中心として―</p> <p>（1）博物館の魅力向上</p> <p>博物館員は、所蔵資料の収集、保存、展示、研究という専門領域に留まることなく、「まちに飛び出す博物館」として、「日本民家園」においては古民家・民具を保有する市民との外部連携関係を構築することにより博物館の魅力向上をはかることを提言する。本件は、博物館員の適性及び経験値に応じた専門的能力と資質の向上にも資するものである。</p> <p>さらに、洗足学園音楽大学（高津区）、昭和音楽大学(麻生区)との連携による「船越の舞台」（歌舞伎舞台）における野外コンサート、地元作家（含むアニメ作家）の作品の映画化を日本映画大学（麻生区）との連携による映画撮影舞台利用、「多世代が参加する地域コミュニティ」を創出する可能性も考える。</p>	メッセージ2-2	川崎には科学館や日本民家園など、楽しく学べる施設があり、様々な事業を展開しています。

No.	媒体	名前	意見	反映を検討する項目	メッセージとして要旨化
51	意見書	河村委員	文化財の保護活用と魅力ある博物館づくりをすすめる ⇒川崎の地域資源や生涯学習環境の整備・活用の一環としての文化財の保護？ 日本民家園・青少年科学館・橘官衙遺跡群 ここは広げるところではなく深めるところでしょうか	メッセージ2-2	川崎の資源や生涯学習環境の整備・活用を進めるため、川崎の文化財を守っていく（文化財の保護）
52	意見書	秋元委員	【共通メッセージ】多世代が参加する地域コミュニティをつくろう！ 地域開放学校図書館のボランティア募集中！ （令和7年4月開校を見込む新川崎地区新設小学校については、地域開放学校図書館事業の開始も検討中）	メッセージ2-2	学校図書館開放を市内10か所で行っています。地域の学校を活用して読書の機会を提供しています。
53	意見書	秋元委員	「地域の担い手」（地域づくり） ・【生涯学習の拠点】を提供 ・区民が集う「オープンで楽しい居場所」 ・読書好きの区民が読後の感想等の意見交換を行うコミュニティ	メッセージ2-2	学校図書館開放を市内10か所で行っています。地域の学校を活用して読書の機会を提供しています。
54	意見書	秋元委員	「世代間交流」（つながりづくり） ・シニア世代に属するボランティア・スタッフが孫世代に属する幼児に絵本を読み聞かせることによるシニア世代と孫世代との「世代間交流」	メッセージ2-2	学校図書館開放を市内10か所で行っています。地域の学校を活用して読書の機会を提供しています。
55	意見書	秋元委員	「家族・地域の教育力を高める」（人づくり） ・「まちに飛び出す図書館」主催の幼児を対象とする絵本紙芝居等「読み聞かせ」に協賛	メッセージ2-2	図書館では読み聞かせを行っています。親子で読書を楽しむことができます。

No.	媒体	名前	意見	反映を検討する項目	メッセージとして要旨化
56	第5回定例会	秋元委員	ボランティアスタッフとして宿河原で地域開放学校図書館をしています。ここで経験から、世代を超えたつながりというのでしょうか、地域開放学校図書館というものが僅かではありますが、貢献しているのではないかなというふうに思ったので、ぜひこのテーマの一つに地域開放学校図書館を入れていただけないものかなと思いました。	メッセージ2-2	学校図書館開放を市内10か所で開催しています。地域の学校を活用して読書の機会を提供しています。
57	意見書	下田委員	「散歩道」「歴史的文化財」等も積極的に入れて欲しい。	メッセージ2-2	川崎の地域資源を活用した事業展開をしています。
58	第5回定例会	秋元委員	学校に入る前の未就学児の小さいお子さんに向けた絵本の読み聞かせは、想像力を高め、フェイクニュース等を見分ける力、考える力を身につけるのに、教材として使えると思う。	メッセージ2-2	図書館で行っている読み聞かせは子どもの想像力を高め、考える力を身に付けることができます。
59	意見書	秋元委員	「コグトレによる児童の学習支援」による「認知機能・記憶力の向上」、「いじめ予防」を「市民館」が主催する「現代的課題学習事業」において、小学校低学年児童を対象に、ゲーム感覚の「コグトレ」を学習することは、認知機能・記憶力の向上、及びいじめ予防に有益である、と考えられる。	メッセージ2-3	市民の発案により事業実施できる「市民自主企画事業」「市民自主学級」を市民館で実施しています。皆さんのアイデアを学びという形で地域に還元することができます。
60	第5回定例会	下田委員	地域文化のところで、五十何年にわたって、地域の演劇鑑賞活動なども川崎は盛んにやっていますし、合唱で言えば、合唱連盟を調べてもらえば民間の100団体以上の合唱団が集まって、毎年フェスティバルとかをやっています。	メッセージ2-3	地域団体の文化・芸術活動が活発に行われています。

No.	媒体	名前	意見	反映を検討する項目	メッセージとして要旨化
61	第5回定例会	秋元委員	川崎らしさというところですが、川崎は音楽のまち、読書のまち、最近では映画のまちというようなことが書かれていますので、この辺がちょっとキーワードかなと思いました。来週の水曜日に「フロンターレ選手と本を楽しもう」というイベントがあるのを知りました。若い世代から子ども世代、そしてスポーツと読書を結ぶ川崎らしいところの一つではないかなと思いました。	メッセージ2-3	川崎フロンターレと連携した読書イベントを実施しています。
62	意見書	秋元委員	「デジタル・シチズンシップ教育」による「いじめ」、「自尊心育成」、「多様性理解」、「分断防止」等の対応。デジタル・シチズンシップ教育が指向する〈自律的思考、フェイクニュース見分け方〉は、「かわさきGIGAスクール構想」を推進するにおいても検討が不可欠であり、主として、「いじめ」、「自尊心育成」、「多様性理解」、「分断防止」等の対応を可能にするもの、と考えられる。 社会教育関連施設のうち、「ふれあい館」、「教育文化会館」、各区の「市民館」における事業とすることが考えられる。	メッセージ3-1	市民館等で実施している講座等に参加し、学び、つながり、考える力を身に付けていきましょう。
63	意見書	河村委員	いきいきと学び、活動するための環境をつくる ⇒一生涯を通じての学びをどのように考えていくか キャリア教育 ワークライフバランス 生涯学習 担い手やコーディネーターの役割 社会参加 スポーツや音楽、映画など趣味を通しての地域コミュニティ参加 多様性 幅広い年代を対象とする地域内の学びの場（市民館・図書館…） 成果をコミュニティにどのように活かしていくか	メッセージ3-1	市民館や図書館など幅広い年代を対象とする地域内の学びの場に行き、地域コミュニティに参加してみよう。そして学びの成果をコミュニティに活かしていこう
64	意見書	高森委員	多くの団体の方から聞くのは、運営に関わる人の高齢化です。子育て世代の方に向けた呼びかけがあると良いと感じました。	メッセージ3-1	市民館では様々なサークルや団体があります。運営に参加したり、グループを立ち上げたりしていませんか。

No.	媒体	名前	意見	反映を検討する項目	メッセージとして要旨化
65	意見書	石川委員	<p>社会のイノベーションを通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、一人一人が快適で活躍できる社会の実現に向けて突き進む、新たな社会「Society 5.0」。今までにない「受動的な学習」から「積極的能動的な学習」を展開するアクティブラーニング。今まで限界を迎えていた学習方法が、世界が変貌する時代が遂にやってきた。それも、とてつもないスピード感を持って登場している。生涯学習は、今後こうした新しい社会環境で育まれる家庭や地域に生きる人を含めて、様々な年齢層が自分の視点で、取り組まれるものと考えられる。</p>	メッセージ3-2	新しい社会環境で育まれる家庭や地域に生きる人を含めて、様々な年齢層が自分の視点で生涯学習に取り組む
66	意見書	石川委員	<p>そして社会、自分が変わる、世界が変わる「場づくり」を実現し、人と人をつなぐ点と点が豊かにつながって「新しい視点」を描くことになる。正しい答えを見つけるのではなく、夢や希望を持って、「人生100年時代の生涯学習社会の実現」～生涯を通じた学びと成長～のために考え、創造する「学習」が始まる。これが、「川崎eye」</p>	メッセージ3-2	新たな場で、新しい視点で、夢や希望を持って想像する学習を。
67	意見書	中村委員	<p>施策3 未来に残したい川崎の宝は何か。身近な文化から世界へ視野を広げよう。</p>	メッセージ3-2	あなたの未来に残したい川崎の宝は何ですか。身近な文化から世界へ視野を広げよう。
68	意見書	石川委員	<p>みんなで取り組もう、川崎で私たちができること</p>	メッセージ3-2	みんなで取り組もう、川崎で私たちができること

No.	媒体	名前	意見	反映を検討する項目	メッセージとして要旨化
69	意見書	石川委員	「遊ぶ、学ぶ、集う、考える、出会う場」、人と人の心をつなぐ「場力（バリキ）」ある心の“場”をつくることにさらに邁進していきたい。その想いが、地域に新しい“場”提供する「きっかけ」となるはずだ。	メッセージ3-2	「遊ぶ、学ぶ、集う、考える、出会う場」、人と人の心をつなぐ「場力（バリキ）」ある心の“場”をつくる
70	第5回定例会	石村委員	フードドライブという取組をやっているのですが、なかなか食事がうまく取れないような方々への支援ですが、川崎の取組って、神奈川県でも断トツで量が多いのです。ほかの地区と比べると、困っているのだったらみんなで助けようというような、そういった働いている方々が多いなど、私自身もここに関わっていて感じているので、「つながり」というところは、ぜひ何か言葉とか、それを感じられるような文章で入ると、みんなでそういう形でやっていきたいという形になるのではないか。	メッセージ3-2	困っている人がいたら手を差し伸べる「つながり」を大切にする社会にしていきたいと思います。

「社会教育委員から市民へのメッセージ」(案)

川崎の生涯学習社会を実現するために

「人生100年時代」と言われるようになり、ますます生涯を通じた学びの重要性が高まっております。川崎市では、様々な場面において生涯学習活動を推進しているところですが、「生涯学習」や「社会教育」と言った言葉になじみのない方も多く、身近に感じていただきたいという思いから、私たち令和4・5年度社会教育委員のメッセージをまとめました。

このメッセージは、何か一つの考えを押し付けるものではなく、社会教育委員一人ひとりの考えをまとめたものであり、「市民の学びを支えていきたい」という願いを込めております。

このメッセージが、生涯学習活動に関わるきっかけになれば幸いに思います。

1 社会教育委員の考える学び・生涯学習・社会教育

(学ぶ中で大切なこと)

(1) 自分事で考える

- ・ 将来世代にツケを残さないように、地域の課題を自分事として考えること
- ・ 何が本物で何が偽物か、自分の頭で考え続けること。

(2) 集い、つながり、つなげる

- ・ 知識を得るだけでなく、他者と関わり合うことで学び合うこと
- ・ つながり合う場を育てる。人々がつながり合い、多様な学び合いや、支え合いができる場を生み出し、安心して暮らせる社会をつくっていくこと
- ・ 「人づくり」、「つながりづくり」、「地域づくり」の推進を図りながら、持続可能な地域づくりと安心して暮らし続けるしくみづくりを進め、横断的な取り組みが不可欠の「学び」の場となる学校、市民館・図書館等の施設が寺子屋的な「場」となり、交流・つながりのあるコミュニティを形成する
- ・ 地域との連携
- ・ 幸せな社会の実現を目指し、教育やIoTと連携し、心の通う豊かなコミュニティづくりを目指したい
- ・ 多様なつながりを大切に、家庭だけでなく地域全体でこどもを見守り育てていく
- ・ 学びを活かしていくこと
- ・ 人と人が結びつき新たな付加価値につなげていくために、市民館・図書館・学校などを活用し、総合的な支援や指導者の育成を行っていくこと

(3) 多様性を認め合う

- ・ 地域に暮らす子供から高齢者まで、多様性を認め合える社会を創っていくこと。

- ・ VUCA な時代、自分たちが受けてきた教育が正しいとは限らないから、多様な人と繋がることで、自らのアンコンシャスバイアスに気付いたり、学びほぐすことも学び
- ・ 多様性・多文化を尊重し理解し合うこと

（４）世代を問わない学びの機会の提供、学びの継続、学び方

- ・ 市民の主体的な学びを支える環境づくり
- ・ 模擬授業などの体験を通じて、時代を担う子供たちの新しい学習環境づくり、人とのつながり、多様性の理解をリードする
- ・ ICT やデジタルを自分たちがどう使っていくか、技術的な使い方を含め、社会の変化に柔軟に対応した学習機会を確保していくこと。
- ・ こどもから大人まで、幅広い世代を対象にした学びが生涯学習。学校教育以外でも学びを継続することが大切。
- ・ デジタル社会が進展している今だからこそ、大人の学びを深めることが重要。
- ・ 様々な社会的な課題がある今こそ、子どもも大人も全ての世代で学ぶ機会を最大限に活用していくことが大切
- ・ 新型コロナウイルスのような事態でも、人づくり、地域づくり、つながりづくりを止めないこと
- ・ 新しいことも古いことも、良いところを取り入れて学びを深めていくこと
- ・ 責任ある行動を取る力を身につけていくためにも、リアルな体験活動が重要。異年齢交流、職業体験、自然体験、ボランティア体験などを展開していくことが重要。
- ・ 学びは子供に限ったことではありません。全ての世代にとって必要
- ・ 教育格差を生まないために、いつでも、どこでも、だれでも学べる環境を整えていくこと

（５）その他

- ・ 人材を育成する「学校」づくり、人を結ぶ「情報ネットワーク」づくり、人を豊かにする「文化・スポーツを楽しむ場」づくりを工夫したい。
- ・ 文化の発見・創造を楽しむこと。地域の様々な文化を見聞きして楽しんだり、生活を豊かにする文化を創る喜びを味わえる社会をつくっていくこと。
- ・ 生涯学習は、伝統的な教育観の単なる延長ではなく、学習観、教育制度、社会の在り方などに対する価値観やライフスタイルの転換をしていくこと

2 川崎の社会教育でやっていることとは？（川崎の魅力）

（1）川崎の魅力発信・資源の活用（施設）

- ・ 川崎には素晴らしい資源がたくさんあります。青少年科学館や日本民家園などの施設を訪れて、川崎の魅力に触れてみましょう。

（2）川崎の魅力発信・資源の活用（事業）

- ・ 青少年の家や黒川野外活動センターなどでは子どもの自然体験活動を行っています。親子での体験活動を試みませんか。
- ・ 市民館では様々な展示をしていたり、講座が実施されていたり、学ぶための環境があります。
- ・ 川崎には青少年科学館や日本民家園など、楽しく学べる施設があり、様々な事業を展開しています。
- ・ 川崎の資源や生涯学習環境の整備・活用を進めるため、川崎の文化財を守っていく（文化財の保護）
- ・ 学校図書館開放を市内10か所で開催しています。地域の学校を活用して読書の機会を提供しています。
- ・ 図書館では読み聞かせを行っています。親子で読書を楽しむことができます。
- ・ 川崎の資源を活用した事業展開をしています。
- ・ 図書館で行っている読み聞かせは子どもの想像力を高め、考える力を身に付けることができます。

（3）地域の団体・企業・市民自主

- ・ 市民の発案により事業実施できる「市民自主企画事業」「市民自主学級」を市民館で実施しています。皆さんのアイデアを学びという形で地域に還元することができます。
- ・ 地域団体の文化・芸術活動が活発に行われています。
- ・ 川崎フロンターレと連携した読書イベントを実施しています。

【生涯学習推進課補足】

- ・ 川崎市の社会教育施設は他にも、ふれあい館や八ヶ岳少年自然の家、子ども夢パークなどがあります。
- ・ 川崎市が取り組んでいることとして、地域の寺子屋事業、家庭教育推進事業、橘官衙遺跡群保存活用事業などがあります。

（参考 令和4年度「かわさきの社会教育事業ガイド」）

3 あなたができること（さっそく取り組んでみてほしいこと）

（1）市民館の講座やサークルに参加

- ・ 市民館等で実施している講座等に参加し、学び、つながり、考える力を身に付けていきましょう。
- ・ 市民館や図書館など幅広い年代を対象とする地域内の学びの場に行って、地域コミュニティに参加してみよう。そして学びの成果をコミュニティに活かしていこう。
- ・ 市民館では様々なサークルや団体があります。運営に参加したり、グループを立ち上げたりしてみませんか。

（2）川崎市社会教育委員から市民の皆様へメッセージ

- ・ 新しい社会環境で育まれる家庭や地域に生きる人を含めて、様々な年齢層が自分の視点で生涯学習に取り組む。
- ・ 新たな場で、新しい視点で、夢や希望を持って想像する学習を。

- ・ あなたの未来に残したい川崎の宝は何ですか。身近な文化から世界へ視野を広げよう。
- ・ みんなで取り組もう、川崎で私たちができること
- ・ 「遊ぶ、学ぶ、集う、考える、出会う場」、人と人の心をつなぐ「場力（バリキ）」ある心の“場”をつくる
- ・ 困っている人がいたら手を差し伸べる「つながり」を大切にする社会にしていきたいと思います。

「生涯学習活動推進方針（案）」に対する社会教育委員からの意見一覧（その他）

No.	媒体	名前	意見
71	意見書	丹野委員	階層的には一番上に来るのものなので、抽象的なものになると思います。特に取り入れたい視点はありません。
72	意見書	森島委員	川崎市教育プランの 第3期実施計画の8つの基本政策からおろした案2の方が、何を基にしてメッセージを発信したのか根拠が明確になって良いのではないかと思います。
73	意見書	丹野委員	「主な事業」の要約的な内容にならないよう、新しい観点のものを記載して欲しいと思います。分かりやすく書くにはやはり階層的な積み重ねで記載する方がよいと思います。個人的には次の内容を記載して欲しいと考えますが、これは下の階層の「主な事業」の内容になりますね。基本政策2の施策1の中で、ICTを活用して学びの機会提供やサービスの提供を提案していますが、コロナ禍の中で市民は自ら学ぶときにインターネットを活用して学びの機会やサービスの提供を受けることが多くなったと感じています。インターネットやICTを活用する中で、ネットリテラシーの向上や利用上の課題、例えば不正アクセスやランサムウェアの危険性やリモートワークでの注意点など、知っておくべきことや課題解決のヒントなどを提供し、その利用者への支援を進めることが必要と考えます。
74	意見書	丹野委員	また、施策2では生涯学習環境の整備を提案していますが、この中にも物理的なネット環境やICTの利用環境の整備などの支援を採り入れることが必要を考えます。生涯学習を進めるうえで、ICTが技術的に利用できない人、セキュリティの確保、ICT環境構築のコストなどが課題となってきます。このような観点からICTを単に活用するだけでなく、自らネットリテラシーを学び、利便さだけでなく危険性を理解したうえでネットやICT活用するとともに、その利用環境の整備を進める新しい施策が必要ではないかと考えます。
75	意見書	中村委員	基本政策6～8がメインだが、1～5にも関わっているので、人づくり、地域づくり、つながりづくりで、特に6～8が基本政策であるような見え方。そうしないと、生涯学習や社会教育には子どもも含まれることがわかりにくい
76	意見書	中村委員	A3見開きで2ページ。両面で、冊子のように折る。表は、目指す社会像、見開きの中は、真ん中に絵があり、周りに政策の説明。人は赤ちゃんからお年寄りまで、外国人も障害者も、学生も会社員も…。裏に基本政策へのメッセージ。
77	意見書	岩木委員	QRコードから、関連のHPや動画、テキストを読み取ることができる。
78	第5回定例会	石村委員	子どもへというのもとても賛成ですし、川崎らしさというところも、ぜひ私としても入れたいなと思う。

No.	媒体	名前	意見
79	意見書	下田委員	各区で50周年企画等でのPRビデオを作っているが、それも参考に魅力の開発につなげて欲しい。
80	意見書	森島委員	なるべく文字は少なく、差しを入れるなど、目からの情報も入るように簡単な形式で、キーワードを大事にした示しの方が、理解をしていただけるのではないかと考えます。
81	意見書	山本委員	議長のお話の中でイラストがあると分かり易とのことでした。 私も子供だけでなく年配の方にもイラスト中心とした簡素化した文章なら、生涯学習に少しでも取り組みやすいのでは？と又参加者が申し込む際の広い窓口が必要かと思えます。
82	意見書	丹野委員	市民にダイレクトに伝えたい内容だけでなく、前段でも記述しましたが生涯学習活動推進方針の記述には及ばなかった内容でも、社会教育委員の意見をメッセージとして書くこともいいのではないのでしょうか。
83	意見書	下田委員	見本の文章は、概ね良いが「地域資源」とか経済的用語（利潤や経済的効率とはなじまない）はなくて欲しい。
84	意見書	岩木委員	フォーマットは、（案1）が良いと思います。（案2）は（案1）に比べ、囲み内の柱立てが具体的であり、逆に書きづらいのではないのでしょうか。（人づくり、地域づくり、つながりづくり）
85	意見書	岩木委員	イラストや図、写真があるほうがよい。文体も、平易な表現を心がける。
86	意見書	河村委員	案2の*家庭・地域の教育力を高める *いきいきと学び、活動するための環境をつくる *文化財の保護・活用と魅力ある博物館づくりをすすめる の3点でまとめられればと思いました。
87	第5回定例会	石村委員	川崎らしさという点で、スポーツ、音楽、多摩川といった言葉なのか、または違う言葉で、川崎だよねというような、そういったものを連想できるようなものを、皆さんで出していただいたいと思う。

No.	媒体	名前	意見
88	意見書	丹野委員	<p>令和4年度川崎市生涯学習活動推進方針の構成を見ると、Ⅰ基本方針、Ⅱ施策の方向性、Ⅲ主な事業の作りになっていて、Ⅲの主な事業は予算の裏付けのある事務事業になっていると思います。この活動方針を作った当初はもちろん基本方針があって施策の方向性、主な事業を下層に向けて事業を進めていったのですが、現在は「主な事業」があることが前提でそこから階層の上に向けて横上げ、内容を要約しつつ進んでいるのではないかと感じています。</p> <p>なぜそう感じるかというと、「主な事業」を見ると予算化された事業が大きな括りで示された事業が並んでいるので、新しい視点の事業がないのではと感じています。</p> <p>井口委員からも提案のあったネットリテラシーやICTに対するリスクや危険性について、私ももっと市民が自主的に学習する環境を整える必要性をあると思っていますが、現在の「主な事業」にはその記載がなく、当然予算措置もされていません。「主な事業」に記載されていない事業について、基本方針や基本政策で触れることは唐突で不自然なので仕方がないのかと感じています。</p> <p>従って、新しい観点からの事業についてどのように記載していくのか、どこに記述していくことかを検討することがまず必要と感じます。</p>
89	意見書	丹野委員	<p>新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって生涯学習も様々なところで制限されてきました。それを克服するため新しい観点で様々な工夫がされてきましたがそのような取組をどのように次年度以降の生涯学習活動推進方針に取り入れていけるのでしょうか。</p> <p>行政を進める生涯学習は基本的に「予算ありき」ですから、社会教育委員が考える生涯学習の理想とは当然乖離があるわけです。そのギャップを埋めるひとつの手法として市民向けメッセージを使うこともいいのではないかと思います。</p>
90	第5回定例会	中村議長	生涯学習活動推進方針も、紙ではなくデジタルでもよいかもしれない。
91	意見書	河村委員	「基本方針」について、特に後半部分の文章が難しく、なかなか頭に入って来なかったため、自分の理解のためにリライトしてみました。なるべく平易な文にして、いろんな方に自分ごとであると考えてもらうことができればと考えます。
92	意見書	河村委員	社会教育委員のメンバーの方は多様で背景もさまざまです。ざっと全体での意見を集約し、その後メンバーが分かれてもう少し突っ込んだ議論をしながら内容を練ることができればよいかもしれないと思いました。